

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【あいさつ運動 の実施】	目的：登校時のあいさつを進んで行うことにより、爽やかな一日のスタートを切るとともに、礼儀を学び、よりよい人間関係を築き上げる。 方法：毎朝、生活委員会が中心になり、登校してきた生徒に積極的にあいさつをする。参加生徒を広く募り、あいさつの輪を広げる。 成果 生活委員会や学級役員が積極的に運動に参加することにより、一年を通して継続してあいさつ運動を実施することができた。来校者や教師へのあいさつ、生徒同士であいさつを交わす様子が日を追う毎に多く見られるようになった。また、意識が広がり、登下校中に地域の方にも挨拶するようになり、称賛の声をいただけるようにもなった。あいさつをする方もされる方もお互いに爽やかにあいさつをすることで、あいさつの大切さを実感し、よりよい人間関係を築こうとする意識を高めることができた。 課題 まだ、声の大きさには個人差があり、あいさつの声を大きく出し切れない様子の生徒も数名いる。声を大きく爽やかにあいさつすることの重要性を十分に理解させる必要がある。
2 実践2 【社会科の授業】 (第2学年)	単元：フランス革命 目標：近世フランスの身分制度と王族、第一身分、第二身分、第三身分それぞれの権利関係や生活の様子を理解するとともに、なぜ革命が起こり、人権が大切にされるようになったのかを考える。 内容：絶対王政の政治体制の中で、税金や生活の中の権利など身分の違いで、厳しく差別されてきた身分の人々がいたことを理解させる。フランス革命当時の国家の様子をそれぞれの身分の立場から見ることによってなぜ人権宣言が生まれ、その後の世の中で大切なものとしているかの理解を深めさせる。 成果 絶対王政という政治制度だけでなく、古来の慣習なども当時の身分制度へ影響を及ぼしており、人権の問題がより根が深いものであることを理解することができた。また、人権問題が現代にも残っていることを理解することで、差別を続けてはいけない、許してはいけないという気持ちをもつことができ、差別について主体的に学習に取り組むことができた。 課題 相手の人権を尊重することの大切さを理解することはできたが、日常生活で学習したことと関連づけて考え行動することができず、相手の立場や気持ちを考えない言動が見られることが課題である。